
もしかして僕が悪い？

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もしかして僕が悪い？

【Nコード】

N0287N

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

「む、もしかして美弥ちゃんボケた？」

【ボケてない】

「ここはあれだね。『うん。僕、小学生・・・ってなんでやねん』って返すべきだったよね。ごめんね。美弥ちゃん」

「ボケてないって言うてるでしょうが！！！！」

見た目は・・・まあ、見れた方だと思う。
けど、

「美弥ちゃん。一緒にがっこく行こ」

「拓海、あんた小学生？」

「いや、違うけど。高校生だよ、美弥ちゃん」
だったら、『美弥ちゃん』やめろ。

どうにも精神年齢が低すぎて、相手に出来ない。

「む、もしかして美弥ちゃんボケた？」

「ボケてない」

「ここはあれだね。『うん。僕、小学生・・・ってなんでやねん』
って返すべきだったよね。ごめんね。美弥ちゃん」

「ボケてないって言うてるでしようが！！！」

しかも拓海の言動は私の怒りの琴線によく引っかかる。

怒鳴りたくも無いのに怒鳴ってしまう。

自己嫌悪。

「今日も美弥ちゃん機嫌悪い？」

「・・・誰のせいだ。誰の」

「もしかして僕が悪い？」

「その通り。よくお分かりで」

似合わない思案顔で何を考えているのやら。

「何が悪かったのかな？」

「全部」

「全部って。それじゃ直しようないじゃないか」
直す気があるのか？

けど、どうせ・・・直らないんだろうなあ。

「じゃあ、とりあえず美弥ちゃんって呼ぶのやめてよ」

「え？」

青天の霹靂へきれきとばかりに驚く拓海。

いや、驚くところじゃないだろう。

「美弥ちゃん。美弥ちゃんって呼ばれるの嫌なの？」

「嫌に決まってるでしょ」

「そうか」

まるで1＋1がいくらなのかを教えている気分だ。

何故そんな当たり前のことから分らないのだろうか。

「恋人同士みたいで。気に入ってただけだなあ」

「恋人同士って・・・ばっつつかじゃないの！！」

それから頭が真っ白になって、思いつく限りの罵詈雑言を拓海に浴びせていた。

それにしても恋人同士って・・・

色々な事を想像しながら、真っ赤になる自分を感じる。

存外、自分の方が子供っぽかったりするのかと思うと、何だか悔しかったり・・・するかも。

「ねえ、美弥ちゃん」

「何？まだ何かあるの？」

「もう機嫌直った？」

「別にあんたに関係ないでしょ！」

もしかしたら確信犯なのかもと思う。

けど、もしそうだとしても私は認めない。
認めたくない。

「ほら、美弥ちゃん。学校遅れるよ」

「だから、手をつなぐな！」

「だって」

そして、今日も今日とて学校で仲がいいと冷やかされるのである。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0287n/>

もしかして僕が悪い？

2010年10月9日21時13分発行